



三郷市長 木津 雅嗣氏

市長のメッセージ

埼玉県 of 東南部に位置する三郷市は、JR武蔵野線・つくばエクスプレスの鉄道や常磐自動車道・首都高速6号三郷線・東京外環自動車道の高速道路網が整備されており、インターA地区・インター南部地区・中央地区の土地区画整理事業の完了、新三郷らシティのまち開きなど、住環境の整備も進む一方で、豊かな自然に恵まれ、四季折々の景色を楽しむことができる魅力あふれるまちとして、にぎわいを見せております。

「きらりとひかる田園都市みさと～人にも企業にも選ばれる魅力的なまち～」の更なる飛躍を目指し、「ふるさと三郷 みんながほほえむまちづくり」を進めてまいります。

めざましい発展を続ける三郷市

三郷市は、都心までわずか20km、埼玉県の東南端に位置している。東に江戸川、西に中川といった大型河川に囲まれ、北は吉川市、西は草加市と八潮市、南は東京都、東は千葉県と接している。

昭和47年の市制施行以来、交通やまちづくりなど三郷市はめざましい発展を遂げている。

交通面では、常磐自動車道三郷料金所スマートインターチェンジ(以下、IC)の本格運用、東京外環自動車道三郷南～高谷ジャンクション間の延伸など、交通の要衝としてその利便性が飛躍的に向上した。

さらに本年4月24日には、三郷料金所スマートICが大型車も利用可能となり、ETC車全車種が利用できるようになった。現在は水戸方面のみ利用可能なハーフICだが、東京方面も乗り降りできるフルインター化を目指している。

まちづくりでは、土地区画整理事業や民間の開発事業が相次いで実施された。

土地区画整理事業では、つくばエクスプレスの三郷中央駅を中心とした中央地区(114.8ha、平成9～30年度)、三郷ジャンクション北側のインターA地区(86.3ha、平成10～28年度)、南側のインター南部地区(44.4ha、平成20～27年度)、その南に位置するインター南部南地区(7.9ha、平成28～令和2年度)が実施され、JR新三郷駅周辺では民間による大規模開発が行われた。

物流施設や工場などが誘致されたほか、三郷

ジャンクション周辺の「ピアラシティ」や新三郷駅前の「新三郷らシティ」には大型商業施設がオープン、閑静な住宅街も形成された。商業施設と併せて、市内には河川や公園、農園など自然豊かな環境もあるため、ショッピングやレジャーも含めて、市内外から多くの人が訪れるなど、めざましい発展を続けている。

充実した子育て支援策

人口が減少する市町村が増えるなか、三郷市ではまちの発展とともに転入者が増加し人口増が続いている。特につくばエクスプレス三郷中央駅周辺では子育て世代の増加が著しい。

そこで、平成30年4月には、妊娠期から子育て期にわたる切れ目のない支援を行う総合相談窓口として、子育て支援ステーション「ほほえみ」を開設した。「ほほえみ」には保健師や助産師だけでなく保育士



つくばエクスプレス三郷中央駅周辺

三郷市概要

人口(2020年7月1日現在)	142,824人
世帯数(同上)	65,552世帯
平均年齢(同上)	45.6歳
面積	30.22km ²
製造業事業所数(工業統計)	403所
製造品出荷額等(同上)	1,291.3億円
卸・小売業事業所数(商業統計)	849店
商品販売額(同上)	2,093.4億円
公共下水道普及率	82.8%
舗装率	89.3%

資料:「令和元年埼玉県統計年鑑」ほか



主な交通機関

- JR武蔵野線 三郷駅、新三郷駅
つくばエクスプレス 三郷中央駅
- 首都高速6号三郷線・常磐自動車道 三郷ICから市役所まで約1km
東京外環自動車道 三郷中央ICから市役所まで約1km

が常駐しており、妊娠・出産、子育てに関する相談に加え、保育施設の利用に関する相談をワンストップで対応する施設として、県内で初めて取り組んだ。

小中学校の教育環境整備では、全ての小中学校の普通教室にエアコンが設置され、今年度中には音楽室などの特別教室と体育館への設置が完了する。埼玉県内では、令和元年9月時点で、普通教室のエアコン設置率は96.0%と高いが、特別教室は59.9%、体育館はわずか0.8%にとどまっており、三郷市の取り組みは早い。

また、平成25年に「日本一の読書のまち」を宣言し、作家の柳田邦男氏を応援団長に、学校や図書館だけでなく家庭、地域が一体となって市民総ぐるみで読書活動を推進している。読書した内容をもとに自分が感動したことを文章や絵で家族に伝える「家読^{うちどく}ゆうびんコンクール」、4カ月児健康診査時に絵本をプレゼントし読み聞かせを行う「ブックスタート」、次世代の読書活動を推進するリーダーを育成する「子ども司書養成講座」、パソコン・スマホなどで電子書籍を借りて読むことができる「電子図書館」、五木寛之氏や林真理子氏といった著名作家を招いた「文学講演会」など様々な取り組みが行われている。

✨ ギリシャ共和国との交流を通じ国際化を推進

三郷市とギリシャとの交流は、平成26年2月の「みさとシティハーフマラソン」で、小中学生の入賞

者にギリシャ大使館からオリーブ冠が授与されたことに始まった。

現在、東京2020オリンピック・パラリンピックにおける、ギリシャのホストタウンに登録され、その後もギリシャの歴史や文化、オリンピックの歴史などについての講演を行う「文化交流プログラム」、保育所や小中学校での「ギリシャ給食」を通じた食育、中学校での「ギリシャ語講座」など様々な交流事業を実施してきた。

令和元年には、ギリシャ共和国陸上競技連盟と「東京2020大会に係る事前キャンプ基本協定」を締結し、三郷市陸上競技場で事前キャンプの実施が予定されている。

今後もスポーツをはじめ様々な分野での取り組みを通じて、国際化の更なる推進を図っていく。

(樋口広治)



「東京2020大会に係る事前キャンプ基本協定締結式」

於:在ギリシャ日本国大使館

左から、コンスタンディノス・パナゴプロス ギリシャ共和国陸上競技連盟会長、清水康弘 駐ギリシャ日本国特命全権大使、木津雅晟 三郷市長